

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

生徒総会でデジタルシティズンシップを推進！

5月17日(金)の午後、本年度の生徒総会を実施しました。本校では今年「デジタルシティズンシップ教育」に取り組み、情報モラルから一歩踏み込んで、デジタル機器

やSNSの使用を自分で考え、判断し、行動していきたい力を身に付けさせたいと考えています。総会のメインテーマも「妻中デジタルアクションプラン」の策定に向けたもので、

各学年で考案したプランについて討議を行いました。宮崎大学の小林博典先生や教職大学院生にも臨席いただき、ご助言をいただきました。今後更に吟味を重ねていく予定です。



表紙絵：福田みうさん（3年）

妻中吹奏楽部と竹林小弦楽団の共演！

5月16日(木)夕方、西都市役所1Fロビーにおいて、来日していた台湾の竹林国民小學の弦楽団と本校の吹奏楽部が共演しました。きれいな弦楽器の音色と管楽器のハーモニーはとても見事で、吹き抜けの2F・3Fからも多数の方々が見守る中、非常にアカデミックな時間が演出され、西都市の新たな姿を見たような気がしました。これを機に、姉妹都市交流などを更に拡充して欲しいと思います。



妻高校との連携・進路特別講座を開催！

5月21日(火)、妻高校の三浦校長先生と学科代表の生徒三名にお越しいただき、進路選択に際してのマイนด์セットを行う進路特別講座を行いました。本校の卒業生である満留遥香さん、佐伯征哉さん、武崎夏加さんの三名が、各学科の特色や高校で自分がいかに成長したかをとっても具体的に話してくださり、三浦校長先生の大局的なお話と併せ、本校三年生の進路選択の視野を広げ思考を深める貴重な時間となりました。ご多用な中、本当にありがとうございます。

一度きりの高校時代をここで過ごすか…。その選択はきつとあなたの人生に大きな影響を与えることとなります。自分の意志で決めてください。妻高校は、前向きに頑張るあなたを、前向きになりたいあなたを待っています！



高校生に入学すると、新たな友との出会いや、興味あることに挑戦するチャンスが増える。失敗を恐れずに挑戦して欲しい！



高校生の皆さん

三浦校長先生

PTA親子奉仕作業、ありがとうございました！

5月19日、日曜日にもかかわらずたくさんの保護者・生徒が参加してくださいました。中庭やグラウンドの除草、刈り払い、溝の泥上げ作業により、学校が見違えるほどきれいになり、清々しい雰囲気になりました。深く感謝いたします。



作業の様子

作業後の中庭



教育実習生が来校しています！

5/20～6/7の三週間にわたり、5名の卒業生が教育実習に来てくれます。教師を目指す卒業生がこんなにいるとは、さすが妻中です。がんばってください！

金丸羽音さん(美術)、濱砂晴香さん(英語)
福島怜旺さん(社会)、福本菜帆さん(社会)
本田賢輝さん(社会)



三真の轍^{わたち}

西都中開校・妻中開校に向けて① 西都中学校の開校まで二年を切りました。このことは「妻中学校の開校まで二年を切った」ということでもあります。様々な準備作業をスタートさせていますが、先日、歴代PTA会長会の方々とお話させていただく機会があり、大変感慨深い時間でした▼意外にも卒業生に人気があるのが「校門(学校銘板)」「写真上」なのだそうです。確かに、卒業後に母校を訪れた際には学銘の入った校門の横で撮影をすることも多いはずですが、他にも思い出の景色などがたくさんあるはずで、そうした景色を記念誌や閉校ムービーなどに反映させることも大切だと感じました▼また、後日校長室内の古い書籍を整理しているとPTA会長OBの方が四半世紀前に書かれた『我が歩みの記』という本が目に残りました。読んでいきますと、昭和46年竣工の妻中先代体育館(写真上)建設(現体育館は平8改築のもの)をめぐる話がかかれていました。当初の建設予定サイズでは狭すぎることを考えた当時の保護者の方々が寄付を募り、広い体育館を造って欲しいと嘆願したところ、それを認めるべきかどうかで争議があったものの広いサイズの体育館建設が実現したとのことでした。私自身、中学生時代にはバレー部員としてその体育館にお世話になって感じ入りました▼当時の保護者の方々の熱い思いに改めて感じ入りました▼先人のお話を聞いたり古い書籍を紐解いたりしてみれば、こうした話はまだまだあるはずで、これから閉校までの期間、こうした作業を行うのも校長の務めではないかと感じております。

(校長 伊東泰彦)



西都中開校・妻中開校に向けて① 西都中学校の開校まで二年を切りました。このことは「妻中学校の開校まで二年を切った」ということでもあります。様々な準備作業をスタートさせていますが、先日、歴代PTA会長会の方々とお話させていただく機会があり、大変感慨深い時間でした▼意外にも卒業生に人気があるのが「校門(学校銘板)」「写真上」なのだそうです。確かに、卒業後に母校を訪れた際には学銘の入った校門の横で撮影をすることも多いはずですが、他にも思い出の景色などがたくさんあるはずで、そうした景色を記念誌や閉校ムービーなどに反映させることも大切だと感じました▼また、後日校長室内の古い書籍を整理しているとPTA会長OBの方が四半世紀前に書かれた『我が歩みの記』という本が目に残りました。読んでいきますと、昭和46年竣工の妻中先代体育館(写真上)建設(現体育館は平8改築のもの)をめぐる話がかかれていました。当初の建設予定サイズでは狭すぎることを考えた当時の保護者の方々が寄付を募り、広い体育館を造って欲しいと嘆願したところ、それを認めるべきかどうかで争議があったものの広いサイズの体育館建設が実現したとのことでした。私自身、中学生時代にはバレー部員としてその体育館にお世話になって感じ入りました▼当時の保護者の方々の熱い思いに改めて感じ入りました▼先人のお話を聞いたり古い書籍を紐解いたりしてみれば、こうした話はまだまだあるはずで、これから閉校までの期間、こうした作業を行うのも校長の務めではないかと感じております。